





へ12
4366
27

夕暮り



けさの夕とものり夕
源氏冬十戈能虫の八月十五
夜十をくけまの能虫は味
より十一月十をうり夕

夕よりれおちちとのえけら
く之君よりけまの能虫は
海より夕りまれてより夕
所分よ 山雲のれを
そら夕をりけまの能虫

もあらあちしそあらしの
まゆえー 山あらしのまゆえ
とこあてまらるもかそ
人のあらししはふんて
まゆえとまゆえ

あらし
あらし
あらし
あらし
あらし

浄法

此書は分作りてあはれ
源氏平上之のまより新ま
てけりるに集れ上りてひ
のち千部の法は經を

たさけむるにどうちと
ぬこのまうどうと六行
基菩薩の法は傳まると
ちんたむけぬあひては法
とあくゝるに集れ上り

ちうれと云はれちる里乃
田子(田)分わりやうあくじ
らうれの上は結うせうを
あふ 田子一

たえぬ魚尾法
あうそえたの事うそ
中世く母と母
まふ中ね結う

